

大人と子供

島内武文

筆者は嘗て或中学の二年生の一團と共に山中湖畔にキャンプ生活をした事があつたが、どうした事か生徒に風邪を引く者が多いのを不思議に思つた。元気ではち切れる様な子が声を嚔らして受診してくる。咽喉をのぞいて見ても大した変化がないので、薬を塗つて含嗽位をさせていた。所がそれが二三人に止まらない。そこでハタと気がついた。年令が恰度13から14の生徒だ。歌等を唄うのを聞いていると、例の妙な高調音が、かすれた声の間に幼年の日の名残を止めている。声變りだつたのだ。

扨て先日小児科は一体何才までをとるのだろうかと言う事が話題に上つた。そう云われてみれば、筆者もかなり長く診療に関係し乍らうつ

かりしていた様である。そこで大人と子供の境は一般には幾才だろうかと思つて、二三調べて見た。

鉄道と映画は満12年を境としていて、学校教育法による小学と中学の境に相当する。小学と中学をこの年齢で分けた事には、恐らく心理学的・生理学的に種々研究された結果と考えるが、成程鉄道や映画等でもこゝを境に取れば、帽子・制服等の服装によつて一見して判別が付きやすいわけだ。

刑法では猥褻・強姦等に関しては、13歳を性的成熟の一時期としている様である。又一般に14歳を過ぎれば刑法上の罪によつて罰を受けることになり、薬事法により劇毒薬を売つて貰える資格が出来るので、良いにつけ悪いにつけ一人前に扱われ始める。公衆浴場・理髪店でも14歳からは大人並みに取られるし混浴を禁じられる。即ちこの年ともなれば、ベアトリチエならずとも、男なれば声變りがあるし、女子であれ

ば月経が始まる。日本では数え年の16歳を女子のロマンチックな時期と相場をきめてあると見えて、八百屋お七だのお夏狂乱は16歳、年も二八か二九からぬ等と賞めている。

十三と十六、只の年でなし。

十六の春から稗を蒔いたよう。

十六で娘は道具揃いなり。

ついで「番茶も出ばな」の十八から厄年へと、昔は却々早熟であつた様だ。

所で肉体的には労働基準法で15歳以上をとっているが、船員法では重労働に18歳以上を必要条件としている。義務教育を終えて16歳以上は愈々青年として世の中に勤労すべき年令となつたわけで、18歳で児童福祉法の手を離れる事になる。

以上述べた様な事柄では、子供であることを主として考えて、年令の限界を定めたものと考えられるのに反して、完全に大人であることを主として考えると年令がずつと上つてきて、こ

こに生活力も加わつて参り、結婚の資格（男子18歳、女子16歳）も備わつてくる。即ち民法では20歳を成年とし、選挙権も出来酒たばこもお許しが出る。

そこで本題に歸つて、小児科はどうかというと、米国病院では12歳を境にしていて、稀に18歳迄を取る処もあるという。これは小児の生理・病理殊に免疫や抵抗力の特殊性、治療方法の違い等によることは勿論、入院後の看護の特徴、男女を別室にする必要等診療及び病室運営の上から考えられたものであろう。

面白い事は、嘗て大阪の子供博覧会での世論調査によると、大人と子供の境は13歳というのが第一位、15才というのが第二位であつたという。「5つで神童、10で天才、15過ぎれば只の人」というが、全く子供は神様の様だ。併しまあ大人はあまり天才ばかり多くては考えものだから、この位でいいのかも知れない。

（筆者は病院管理研究所員）